

平成28年度 第2回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成28年12月6日(火) 午前10時00分開会
午前11時05分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 2階大会議室
- 3 出席委員 込山正秀町長、天野文子教育長、稲恵子教育委員、米山芳子教育委員、相原正和教育委員、湯山伸彦教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等
杉澤晃芳理事、湯山博一企画総務部長、田代順泰教育部長、秋月千宏住民福祉部長、池谷精市経済建設部長、長田忠典町長戦略課長、小野正彦こども育成課長、山本智春生涯学習課長、渡邊晃こども育成課専門監、武藤浩こども育成課長補佐、渡辺徹町長戦略課長補佐
- 6 傍聴人の人数 0人
- 7 報道機関者の人数 0人
- 8 会議次第
 - 1 町長あいさつ
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 会議事項
教育に関する重要施策の方向性について
(1) 成美小学校放課後子ども教室について
(2) 特別支援教育・幼児教育について
 - 4 今後の開催予定
- 9 会 議
 - 1 町長あいさつ
湯山伸彦様には、12月1日より新たに教育委員に御就任いただいた。小山町教育大綱の基本理念である、「富士山頂のあるまち」「金太郎生誕の地」にふさわしい、元気で明るく心豊かな人づくりの実現に向け、お力添えをいただきたい。
本日の会議事項は、「教育に関する重要施策の方向性について」である。教育委員会から提案のあった、「成美小学校放課後子ども教室」及び「特

別支援教育・幼児教育」の2つの施策について、その方向性についてご協議いただきたい。

2 教育長あいさつ

12月3日の市町駅伝でVを奪還できたことは、皆様方の応援によるものと感謝する。

今後、世の中にどのような変化があるか読めないが、教育はきちんとしなければと考えている。その1点目として、人としてどう生きていくかという、「生きていく力」を子供達の身に付けさせたい。小山町では、金太郎のようなやさしくて強い子供達を育てていきたい。2点目は、社会に出てきちんと働ける人間を育てたい。基礎学力をきちんと身に付けさせて、世の中に送り出して行くという、大事な使命を持ってやっていきたい。

これらの事を各学校に指導・助言し、サポートできる教育委員会でありたいと思っている。

3 会議事項 議事進行は、座長である町長にお願いする。

・教育に関する重要施策の方向性について

(1) 成美小学校放課後子ども教室について

座長（町長）：成美小学校放課後子ども教室について、教育委員会から説明させる。

田代教育部長が「(1) 成美小学校放課後子ども教室について」、資料1～3ページに基づき説明を行った。

座長（町長）：成美小学校放課後子ども教室について、委員の皆様から意見を伺いたい。

稲委員：英語に関する事だが、ALTの先生は、発音や英語への関心・興味を向上させ、生きた英語を生徒に伝えられるので大切だと思う。ぜひ、ALTの先生の配置をお願いしたい。

学習指導については、教員の支援もお願いしたい。

米山委員：英語の勉強は、生の英語を子供達に聞かせてあげたいので、ぜひALTの先生を配置していただきたい。
子供の学習の件だが、3、4年生が一番基礎が身に付く時だと思うので、宿題ができるように身に付けさせていきたい。

相原委員：放課後子ども教室は、既に北郷・須走小学校で実施され

ており、小山中学校区で平成 29 年度から予定されていることは、保護者としても嬉しい。現在、家庭での教育環境が変化しており、家で宿題をしっかりとできる子が少なくなっていること、家だとメディア等の学習環境を阻害する要因があることから、集中して宿題ができる環境があるのは良いことだと思うので、ぜひ進めていただきたい。

また、英語は、中学に入学して初めてやる教科となる。最初の段階で出遅れると、そのままになってしまう傾向が見られるので、小学校のうちからALTの方に教わり、中学校に入学することで、学習に対する自信を持つことができると思うので、進めていただきたい。

湯山委員 : 地域の子どもの関係性が希薄な状況で、集団化できないことや、安全な遊び場が確保できない現状があることから、できるだけ多くの地区で、放課後子ども教室が開催できれば良いと思う。教育委員会の点検計画書によると、平成 31 年度までに 3 校という目標となっているが、平成 29 年度で達成されてしまう。しかし、開催されていない地域があるので、他地域でも早く開催できれば良いと思う。今後、小学校で英語が導入されるため、授業と放課後子ども教室を上手く関連付ける配慮が必要だと思う。また、既に開設されている須走の状況を見ると、学習指導は人気が無い。何故人気が無いのか、どのように改善すれば参加者が増えるかを検討しなければ、せっかく開設しても参加者が少ないと効果が無いと思う。個別指導等で手厚い指導をすれば、子ども達も充実感を得られると思うので、検討する必要があると思う。

教育長 : 放課後子ども教室の目標は、平成 31 年度までに 3 校となっているが、子ども達や地域の実態を考慮した場合、できるだけ早く、全ての学校で開設したいと考えている。指導員についても早く確保していきたい。現在は、教員のOBやALTにより実施しているので円滑に進んでいる。また、英語は人気があり学習の人気が無い要因は、授業が終わった放課後に、また勉強と考える子どもが多いからだと思う。今後は、授業で解らなかったことを解るようにするだけでなく、宿題を家では集中してできない、宿題を親が見きれない子や親に対して働きかけをし、宿題ができるよう指導することを加えて進めていきたい。

座長（町長）：教育委員会に伺いたい。

現在開設している須走と北郷の放課後子ども教室の評判はどうか？教育委員や教育長の発言に対する見解も含めて回答をお願いします。

渡邊専門監：英語については、ALTを配置し教員のOBも同席していることから、保護者からの評判も良く、子どもも生き生きとしている。

学習に関して、須走で3名とニーズが少ないが、教員のOBが教材を工夫して実施しており、落ち着いて学習ができるよう、個々に合わせて取り組んでいる。年度当初と比べると、子どもの成長が伺える。

また、須走では将棋も実施しており、英語や学習と違う側面があり、その場で活躍できる子どもがいたり、将棋を通じた人間関係が築けている。

内容と指導者の質が高いことから、効果が表れていると認識している。

座長（町長）：他に何かあるか。

米山委員：4時30分の迎えに対応できないため、預けられないことはあるか。

渡邊専門監：あると思う。安全面は非常に重要なことなので、送り迎えが可能であるということで、入会していただいている。ただし、状況によっては親の代わりに知り合いが迎えに来る場合もある。

指導員と管理人が、子どもと親が帰宅したことを確認してから戸締りをするなど、安全面に配慮しながら運営している。

座長（町長）：平成29年度に成美小学校が開設されると、残りは明倫小学校と足柄小学校になり、教育長はなるべく早く全校で開設したいと考えているようだが、開設までの間、この2校に対する配慮はどう考えているか。

また須走と北郷で実施している英語は5・6年生が対象だが、成美は6年生のみとなっている理由は。

渡邊専門監：残りの2校についても進めて行きたいが、受け皿が難しいと思う。ただし、放課後児童クラブを実施して、仕事を

している親への対応はしているのですが、きちんと運営していくことが方策の一つとなると思うが、放課後子ども教室と趣旨が違うので、全ての学校に子ども教室を開設したい。

また、成美小学校が6年生のみとなっているのは、須走と北郷で3・4年生の英語を実施しているが、授業で英語を実施しているのは、5・6年生が主なので、取組みが難しいという課題がある。そのため、成美小は6年生を中心に実施しようと考えた。今後、新学習指導要領になると3・4年生も英語学習があることから、放課後子ども教室の対象を中学年まで拡大することも考えられる。

座長（町長）：須走、北郷とも評判が良いという報告があり、良かったと思う。

湯山委員から発言があったが、総合計画後期基本計画の中にも、放課後子ども教室を平成31年度までに3箇所とする目標を掲げている。平成29年度で既に達成することになるので、目標を上方修正するなど、状況を見極めながら進めてもらいたい。

次に、特別支援教育・幼児教育について、教育委員会から説明させる。

田代教育部長が「（2）特別支援教育・幼児教育について」、資料4～10ページに基づき説明を行った。

座長（町長）：特別支援教育・幼児教育について、委員の皆様から意見を伺いたい。

稲委員：特別支援学級の授業を参観したが、先生の指導は根気が必要で大変だと思う。子ども達も着実に成長しているので、支援を継続してもらいたい。

指導主事が現在の1名だと忙しいようなので、増員をお願いしたい。

米山委員：子どもを特別支援にするか、一般学級にするのかの分け目は大変なことだと思うが、子どもの個性や能力を考え、親への説明を上手くやれば、子どもも成長するし親も安心して学校に預けられるのではないか。支援学級の先生を見ると、根気がいるので大変だと思う。

相原委員：先日、小山中学校で参観したが、先生が子どもにとっても丁

寧に一つ一つ教えながら、ゆっくり授業をしているのを見た。

昔は、現在なら特別支援学級に通う子も同じクラスで授業を受けていたので、一人ひとりが違うことを他の子どもも理解していたと思う。現在のように、クラスを分けることで、丁寧な教育ができるので継続していただきたい。

幼児教育について、本来なら子どもを育てる幼少期は、家庭で親が見るものだが、現在では家庭環境が変化しており、家庭力や親の力が低下していると言われている。家庭で子どもの教育が出来ないと、小学校入学時に浮いてしまうこともあると思う。そこで、園で幼児教育の部分をカバーできれば、小学校入学時に他の子どもと一緒にできると思うので、そのために、保育士の質の向上や人数の確保も必要だと考えている。また、御殿場の私立に通っている子どももいるが、できれば小山町の子どもは全て町内で見ることができれば良いと思う。

湯山委員

：特別支援対象の子どもが著しく増加している。平成1ケタは、御殿場養護学校全体で75名程度の生徒数だったが、数年前から2百数十名に膨れ上がっている。それだけでなく、各学校の特別支援学級も増設されているが、そこにも収まりきれず、通常学級にも入っている状況で、指導も大変になっていると感じている。まず、就学指導の大変さがある。最終的には、保護者の理解が無いと措置ができないため、親との信頼関係を築くため、丁寧に対応していくと、何度も足を運ばなければならない。また、子ども達に対しては、できるだけ早く対応することが子どもの将来の可能性を大きくすると感じている。12月4日の静岡新聞の記事に、横浜で発達障害の待機児童という記事が掲載されていた。保護者が、自分の子どもがもっと早く専門家に対応してもらっていたら違っていたのでは、と国に訴えているという内容だった。このような状況はどの地域でもあり、親も一生懸命やっても自分の力だけではどうにもならない、という思いをもどかしく感じているのだと思う。このような保護者に対して、できるだけ手厚く対応できる体制が必要だと思う。最大限の対応をお願いしたい。

また、保護者が相談できる拠り所のような場所があればより良いと思う。

さらに、どこの地区にも特別支援学級があり、地元の子ども達と同じ学校に通えるようになれば、保護者も安心だと思う。

教育長 : 特別支援教育は、昔と大きく変わっている。通常学級に居る支援が必要と思われる子どもを、支援学級に通わせるのは保護者の考え方に大きく左右されることから、理解してもらうのに何度も話し合いをする必要がある。話し合いも保護者の心に寄り添って親身になって進めなければならないので、かなりエネルギーが必要となる。この事務量は大変時間を要するものとなっている。また、小学校に入学してからでは遅く、入学前の幼児教育の時点で対応する必要がある、国でも幼児教育に関する施策を強く出している。県に於いても「幼児教育推進室」を設置した。町でも先取りで、退職した校長先生に依頼し、総括支援員を配置して幼稚園や保育園の先生の指導を実施しているが不足している。幼児教育では、「子ども達の心を育てる」ことをしっかりやることで、小学校での教育が円滑に進むと考えている。

座長（町長） : 特別支援学級のある学校の大変さは良く理解できた。本日の議題の要旨は指導主事の増員だと思うが、去年の総合教育会議の中にアドバイザーの増員の件があり、今年度から1名増員したが、アドバイザーと指導主事の兼ね合いはどのようなになっているのか。

渡邊専門監 : 一昨年の全国教頭会特別支援教育部会の中で出た話だが、障害を持つ子が不登校になり、不登校になった子どもが中学卒業時に引きこもりになってしまう。全国では引きこもりになって、仕事をせず生活保護を受給しているということもある。大人になった時に社会に出られるかが重要となることから、特別支援教育が大事になっている。

昨年度、授業アドバイザーが増員され、指導主事の仕事の一部を受け持ち、各教員の資質の向上に努めている。ただし、特別支援学校に行くのか、特別支援学級に行くのか、それとも通常学級に行くのかの判断は、その子の人生にとって非常に大きな意味を持つことから、教育委員会でも丁寧な対応をせざるをえない。相談員が対応しているが、最終的には知識や経験を持つ指導主事が、保護者・学校・本人の状況等を複合的に鑑みながら就学の指導をしている。アドバイザーにより指導主事の負担は軽減されているが、肝となる部分は指導主事が対応することとなるため、保護者対応等は軽減されていない。ぜひ、指導主事を1名増員していただきたい。

座長（町長）：趣旨は良くわかるが、学校別の人数を見るとバラつきがあり、そのあたりの考慮も必要だと思う。この件は、職員定数のこともあるので、この場で結論は出せない。

4 今後の予定（案）について

町長戦略課長が、次回の総合教育会議は、平成 29 年 7 月頃に開催する予定であることを報告した。

5 その他 特になし。